

# 資料室ニュース

2023年1月号

編集・発行：一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会（豊中市委託事業）

## 購入図書（2022年11～23年1月分）

### ・いかれころ

（新潮社 著・文：三国美千子 PI60）：1,760円

#### 【内容】

「ほんま私は、いかれころや」

河内弁で「完膚なきまでやられた」のは誰か——。南大阪のある一族に持ち上がった縁談を軸に、牧歌的な田舎の暮らし、不安定でわがままな母を甘やかす本家の祖父母、学生運動をしていた婿養子の父、精神を病んだ叔母、因襲に縛られた親戚たちの姿などを幼女の視点から鮮やかに描く。新人らしからぬ圧倒的力量を選考委員が絶賛した三島由紀夫賞受賞作にして新潮新人賞ダブル受賞のデビュー作。



### ・子どもの力を伸ばす子どもの権利条約ハンドブック

（自由国民社 著・文：木附千晶 福田雅章 PI60）：1,870円

#### 【内容】

“世界でたったひとつだけの宝”として大切にされながら、ありのままの自分を受け止めてもらい、「自分らしく思いやりのあるおとな」へと向けて大きくなる資格が、子どもにはあります。

それを、子ども自身が実現する力を与えたのが、子どもの権利条約なのです。



## ・みな、やっとの思いで坂をのぼる

水俣病患者相談のいま

(ころから 著：永野 三智 P256)：1,980 円

### 【内容】

不知火海を見下ろす丘の上に水俣病センター相思社はある。2004年の水俣病関西訴訟の勝訴にともない、「自分も水俣病ではないか」との不安を抱える数千の人たちが、いまでも患者相談に訪れる。

著者は、相思社での患者相談などを担当する日常のなかで、自分の生まれ故郷でいまでもタブーとされる水俣病事件の当事者たちと接するようになり、機関紙で「水俣病のいま」を伝えるための連載「患者相談雑感」を開始した。

本書は、本連載をもとに大幅に加筆して一冊にまとめた記録だ。

「やっとの思いで語り出した人びとの声」がここにある。



## ・「ヤングケアラー」とは誰か

家族を「気づかう」子どもたちの孤立

(朝日新聞出版 著・文：村上 靖彦 P360)：1,870 円

### 【内容】

小学生の15人に1人が「家族の世話」を担い、社会問題として顕在化してきたヤングケアラー。メディアでは身体的な疾患や障害をもつ家族の介護をする子どもがクローズアップされることが多いが、実際には、精神疾患の母親をケアするケースも多い。本書では、家族をケアする子どもたちが体験する孤立を「語り」から考える。彼ら彼女らの言葉に丁寧に耳を傾け、ディテールにこだわって分析を重ねていく。

すると、これまでほとんど知られることのなかった、ヤングケアラーたちの複雑かつあいまいな体験や想い、問題の本質が浮かび上がってくる。また、そこから、どのような「居場所」や支援を必要としているのかも見えてくる。



## 資料室の利用方法

図書の貸出は1回につき原則3週間、5冊までです。期限は厳守してください。

貸出カードに名前、住所をご記入ください。電話、FAX、メールでも受け付けています。連絡便での貸出・返却が可能です。貸出中の場合はご了承ください。

〒561-0884 豊中市岡町北3-13-7

TEL: 06-6841-5300 FAX: 06-6841-6655 mail:bwz37306@nifty.com

